

令和5年度第3回青森市社会教育委員会議定例会議 会議概要

- 1 日 時： 令和6年3月29（金）13時30分～15時10分
- 2 会 場： 青森市教育研修センター 5階 大会議室
- 3 出席者： 棟方 梢議長、青木 敦子委員、石澤 千鶴子委員、伊藤 尚三委員、大鷹
依子委員、小笠原 秀樹委員、滝口 小百合委員、長尾 信委員、平山 健一
委員、米田 学委員

事務局：

教育部長	:	小野 正貴
教育次長	:	武井 秀雄
文化学習活動推進課長	:	東條 英哲
文化遺産課長	:	鈴木 謙一郎
中央市民センタ一館長	:	奥崎 和彦
市民図書館長	:	村上 泰子
指導課長	:	後藤 孝範
浪岡教育課長	:	福原 崇

4 次第

- (1) 開会
- (2) 案件等
 - ①令和6年度社会教育関係事業（教育委員会所管）について
- (3) その他
 - ①青森市東部市民センターの優良公民館表彰受賞について
 - ②松原地区のまちづくりの方向性について
 - ③人事異動の報告について
- (4) 閉会

5 主な質疑応答、意見等

- (2) 案件等①令和6年度社会教育関係事業（教育委員会所管）について

＜コミュニティ・スクール推進体制構築事業＞

- ・フィードバックがどういう形で行われているか。

⇒行われている活動について団体ごとに整理してもらい、それをすべての学校がネットワーク上で見ることができるように情報共有を行い、後から始まっている人たちも前からやっている人がどういう活動をしているか分かるようにして、みんなが情報共有していけるような形で進めている。

- ・子どもたちがコミュニティ・スクールの活動をすることでどういう効果があるのか。

→例えば、防災の訓練において子どもたち自らで運営というのは厳しいかもしれないが、活動を重ねていくことによって、運営の仕方を覚えて、大きくなった子たちが今後、今まで経験したことを下の子に指導する。そういった活動によって学校の授業とは違った社会コミュニティのあり方、人と接する、人に指導する、指導を受けるなど様々なことを学ぶことができると認識している。

・某地区でも今年度、地域のかたと防災訓練の活動を行い、以前行った際は、地域のかたがテントを作り、避難所の設営まで終わってから子どもが参加するという状態だった。今年度は町会のかたやコミュニティ・スクール委員のかたから子どもたちと一緒にテントを作るなどの活動をするべきじゃないかとの声もあり、今回は子どもたちと一緒に段ボールベッドを作成したりしている。来年度は併せて、炊き出しまでしようということで計画を立てている。

・今後、全中学校区にコミュニティ・スクールを拡大していくのか、もしそういった方向性であればいつ頃を目途に、全市内、全中学校区へコミュニティ・スクールが広がるのかお伺いしたい。
⇒方向性としては全中学校区でやっていきたいと考えている。

目途としては市内19中学校あるが、現在、コミュニティ・スクールは12中学校区まで広がっており、残り7中学校区となっており、今までのスパンで行くと2年で4中学校区拡大していることから、あと4年で全中学校区に浸透するという事となる。コミュニティ・スクール拡大についての詳細は現在検討中となっている。

・私のいる町内会では各小・中学校、保育園などの学校だよりが回覧板で回ってくる。そういった情報を得て、子どもたちの考え方などを知ることが出来ている。その中の学校だよりを見ると書かれている学校の目標とコミュニティ・スクールの目標は違うのか。
⇒学校では教育目標というのがあり、それを目指して、その下に努力目標というものがある。また、コミュニティ・スクールの中では9年間で目指す育てたい子ども像というものを軸に考えているが、大きくかけ離れたものではない。

・9年間その地域で育てたい子ども像を地域の人たちが理解できるか。地域全体でどのようにやっていくのかというところが難しいポイントだと思っている。積極的にやりたい人だけでなく、広く地域の人を巻き込んでお互いに知恵をもって、他の地域などで参考にできるところは参考にしていきたいのかなと思った。

・子どもの自殺の原因にもなる虐待はなぜ虐待をしなければいけないようになったかの母親とか父親の心理をどのように理解するかというのが非常に大事で、父親、母親のフォローをいかにしていくかこういった問題は1つの課だけに収まる話でなく、そういったことの情報共有を行い、連携することで親御さんたちのフォローをしていくことが重要だと感じる。
コミュニティ・スクールに絡めると地域でいつも声がけしてくれる人がいるとその地域の中に自分がいる実感が子ども達は持てると思う。そういったことから「死にたいと思っているけど地域のあの人がいつも声をかけてくれるんだよね」と子どもたちが感じる気持ち一つでも自殺は減らせると思う。そういった観点からもコミュニティ・スクールは重要な役割を果たしていると感じる。

＜はたちのつどい開催事業＞

・一斉開催としたことにより、事業費が増えると認識していたが、昨年度と異なり、事業費の決算見込みが大幅に減っているが何か理由はあるか。

⇒昨年度までは各中学校にそれぞれ委託する費用を組んでいたが、今年度は青森地区、浪岡地区の2か所開催で1事業者に委託契約を行い、事業を行ったことから市内各中学校に委託することに比べ、委託費用が減少したためである。

＜読書活動推進事業＞

・今の時代、若いお母さんたちはYouTubeなどの映像を見せて寝かしつけたりするなど、読み聞かせの重要性が薄れてきている印象にある。やはり、絵本の読み聞かせや親子の会話、そういったものを大切にしてほしいと感じており、赤ちゃんを対象としたお話し会などを今後も続けてほしい。

＜その他＞

・小学生が中学校へ上がった時に問題の無いようにと、具体的には中学校の授業を受けたり、給食を食べたり、中体連の壮行式に参加したりと、そういった活動報告を受けて、授業を受けているとき、給食を食べているときすごく楽しかったのもっと増やしてほしいという感想が多いとの報告を受けている。そのような感想を聞いて、小中一貫の9年間というものをすごく意識した活動であると実感している。

・越境入学についての基準等あればお伺いしたい。

⇒例えば、両親が共働きの留守家庭の場合、祖父母に預けるために祖父母の自宅がある学区の小学校に入学させるなどのケースがあり、項目で言うと全部で10項目ほどある。

また、中学校であれば、希望する部活が進学先の中学校にない場合など、そういった場合は越境入学を認めている。